

[成果情報名] 一番茶(かぶせ茶)の製茶品質と単価が向上する被覆開始時期と被覆期間

[要約] 一番茶 1.5 葉期から 22 日間被覆すると、同 3 葉期から 10 日間の被覆と比較して、摘採日における摘芽重、SPAD 値、全窒素含有率は両者とも同等であったが、製茶品質は良好となり、単価もやや高くなる。

[キーワード] チャ、被覆開始時期、SPAD 値、全窒素含有率、製茶品質

[担当] 大和茶研究センター

[分類] 普及・行政・教育の参考となる技術情報

[背景・目的]

県内ではかぶせ茶の生産が盛んであるが、被覆開始時期は生産者によって異なり、適切な被覆開始時期は明確になっていない。他府県の事例では 1.5 葉期～2 葉期での被覆開始を推奨している。そこで、大和茶研究センター内圃場において一番茶の 1.5 葉期に被覆を開始する区（以下 1.5 葉区）と 3 葉期に被覆を開始する区（同 3 葉区）を設け、被覆をしない露地区と比較し、被覆開始時期の違いが茶の生育・成分に及ぼす影響について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 摘採日の摘芽重は 1.5 葉区と 3 葉区で差はなかった。しかし、どちらも被覆をしない露地区と比べ小さくなる傾向が見られた（図 1）。
2. SPAD 値、全窒素含有率は被覆により露地区と比べ高まった。3 葉区の場合、被覆後に高まり 8 日程度で 1.5 葉区の値に近づいた。その後、摘採日には追いつき被覆開始時期の差はなくなった（図 2）。
3. 官能審査による製茶品質は、1.5 葉区の荒茶において、内質での評価が高く、特に香气、滋味で高かった。価格指数は 1.5 葉区の荒茶は 3 葉期から被覆したものよりも高かった（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 被覆開始時期の検討資料として活用できる。
2. 被覆は黒色ラッセル織りの資材（遮光率約 85%，商品名：ダイオラッセル 85P）を使用。摘芽重は 20cm×20cm 枠内の新芽を前回整枝面の 1cm 上で摘み取ったものとした。SPAD 値は葉緑素計（SPAD-502Plus：KONICA MINOLTA 製）で新芽上位から 3 葉目（3 葉に満たない場合は 2 葉目）の葉脈と葉縁の間の中央部を 1 区あたり 20 芽について測定。全窒素含有率は茶成分分析計（GTN-9，カワサキ機工株式会社製）にて測定。
3. 被覆期間が長いと製茶品質、単価は向上する傾向にあるが、収量は摘芽重から推察すると、露地よりも少なくなり、減収する可能性がある。なお、被覆期間が長いと落葉が多くなるため、樹体への影響や被覆資材の利用計画等も考えて被覆期間を決定する。

[具体的データ]

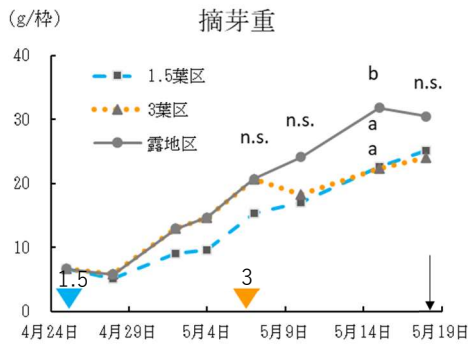


図 1 被覆後の摘芽重の変化(2022)

注) 異なる文字間に5%水準で有意な差があることを示す(Tukey法、n=3)

▼と数字は被覆開始時期、↓は摘採日

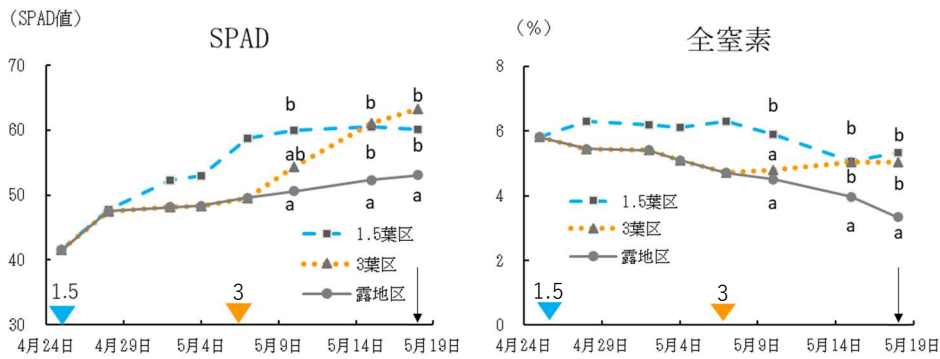


図 2 被覆後の SPAD 値、全窒素含有率の変化(2022)

注) 異なる文字間に5%水準で有意な差があることを示す(Tukey法、n=3)

▼と数字は被覆開始時期、↓は摘採日

表 1 官能審査の結果(2022)

試験区	官能審査評点 ^z					合計	概要	価格指数 ^y
	外観		内質					
	形状	色沢	水色	香気	滋味			
1.5葉区	9.6	9.6	9.8	9.8	10.0	48.8		171
3.0葉区	9.8	9.8	8.4	9.4	8.8	46.2	渋さが残っている	157
露地区(対照)	8.0	7.8	8.6	7.8	8.6	40.8	うすい、まろやかさ足りない	100

^z 各項目 10 点満点、合計 50 点満点、審査員 5 名の平均値

^y 露地区の価格を 100 としたときの指数

[その他]

研究課題名：茶業地域対応技術開発

予算区分・研究期間：県単・2021～2022年度

研究担当者：谷河明日香

発表誌等：奈良県農業研究開発センター研究報告第 55 号